

# 口腔ケアは、がん治療を支えます

歯科衛生士 丸山 みどり

がんは一昔前までは、不治の病といったイメージがありましたが、近年では治療方法もめざましく進歩し、がんは治る病気、長く共存できる病気になり、がんの患者さんは、治療を乗り越えて社会復帰を果たしています。

がんの主な治療法には、手術、薬物療法、放射線治療があり、抗がん剤や放射線治療を行うと個人差はありますが、体に何らかの副作用が起こります。特に口腔内の細胞は影響を受けやすく、歯茎から出血したり歯周病や歯槽膿漏が悪化したり、口腔粘膜炎に悩まされたりします。口腔粘膜炎とは、頬

の内側や舌・唇などに起こる口内炎のような炎症で強い痛みを伴います。菌が全身に広がって発熱の原因になることもあり、痛みを伴う口腔内トラブルの場合、食欲低下にも繋がります。他には味覚障害や口腔内の乾燥も挙げられます。唾液には口腔内細菌やウイルスを洗浄する働きがあり、唾液の出が悪くなると、これらの微生物が口腔内に留まり、放置すると虫歯が増え、歯槽膿漏が一気に悪化していきます。



また、口腔内の汚れが手術に支障をきたすケースも少なくありません。全身麻酔時にチューブを口から挿入するため、口腔内細菌が術後肺炎の原因になったり、口や喉の手術では、細菌が傷口に入り感染を起こしたりすることもあります。副作用のリスクを下げ、症状を和らげ一日でも早く治すためには、口腔内を清潔に保つ口腔ケアが非常に有効です。がん治療中に起こる口腔内の副作用の対応は、治療の開始後、口腔内トラブルが起きてから対応するのでは、間に合いません。がん治療を始める前に口腔内を清潔にしてトラブルが起きにくいように準備することが大切です。治療が始まる前に歯科を受診し、虫歯治療、歯石除去、動揺歯の確認、義歯調整を行い、口腔内環境を整えることで、その後の治療による副作用が軽減されます。歯科で指導を受けた「正しい歯磨き」で、トラブルを引き起こす原因になる細菌を減らし良い状態を維持してください。



**がん治療を始める前に  
歯科に行きましょう！**

## 参考文献

国立がん研究センターがん対策情報センター『がんという病気について』  
公益社団法人日本歯科医師会『治療前からの口のお口のケアのすすめ』